

～ほ場の生育に合わせた水管理を！～

1 6月25日現在の生育状況 ～依然として茎数は少ない～

○6月25日現在の生育は、草丈は
 平年比116%と平年よりかなり
 長く、茎数は平年比77%とかな
 り少なくなっています。葉数は平
 年差+0.2葉で、葉色は平年比
 103%となっています。

○茎数は少ないほ場が多いですが、
 すでに必要茎数を確保したほ場
 もあります。また、6～8月は高
 温が続く予報であるため、生育が進み、幼穂形成期が早まる可能性があります。ほ場の生育に合わせた水管理を適切に行いましょう。

表1 水稻定点調査結果(農業振興普及課)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	41.7	386	9.1	46.4
平年値	36.1	502	8.9	45.2
平年比	116%	77%	0.2	103%

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

7月 日	上旬			中旬		下旬	
	1	5	10	15	20	25	31
生育	最高分けつ期 10葉期			幼穂形成期 11葉期		減数分裂期 12葉期	
水管理	中干し			間断かん水 ※あきたこまちRの場合			湛水管理
	中干し			間断かん水		湛水管理(カドミウム吸収抑制対策)	
作業	★斑点米カメムシ類対策						
	畦畔草刈り						草刈り禁止期間*
	※出穂10～15日前から収穫2週間前まで。ただし出穂期10日後頃の薬剤散布後7日以内に一度草刈りを実施する。						
	★葉いもちが発生した場合						
	ブランチ剤又はノブラス剤を散布			必要に応じてピ-ム剤の追加散布			
	★穂いもち防除を実施する場合						
	① コトツブ剤又はゴウツツ粒剤を散布			② トライフロアブル又はピ-ム剤 + トライフロアブル又はラブザイト剤			

2 水管理 ～こまちR以外ではカドミ吸収抑制対策徹底を～

- 目標穂数と同数の茎数を確保できたほ場では、中干しを実施して無効分けつを抑制します。無効分けつを抑えることで稲体の消耗を防ぎ、稔りの良い穂が確保できます。
- 中干しの期間は7～10日位を目安に、田面に軽く亀裂が入り、歩いて軽く足跡がつく程度とし、遅くとも幼穂形成期前までには終了してください。強すぎる中干しは作土の酸化を促進しカドミウムを吸収してしまうため、行わないでください。
- 茎数がまだ確保できていない場合は、引き続き浅水により分けつ発生を促進する管理を行います。その場合、当面は気温が高い予報となっているので、還元に注意し、必要に応じて短期間の落水や間断かん水等を行ってください。

○あきたこまちR以外の品種では、中干し後はカドミウム吸収抑制対策として、出穂前

後各3週間（開始目安は幼穂形成期頃）の湛水管理を徹底してください。

○湛水管理を行うことで田面が空気に触れないように保ち、土壌を還元状態にすることでカドミウムの溶出を抑え水稻に吸収されるのを防ぐことができます。

用水が不足する場合は、地域で話し合い番水等の対応を行ってください

3 追肥 ～ 幼穂形成期の生育・栄養診断を実施しましょう ～

幼穂形成期の生育による追肥の診断(暫定案)

生育型	生育過剰	理想的な生育	生育不足
草丈 (cm)	65 cm以上	60～65 cm	60 cm以下
葉色 (SPAD502) (葉色板)	42以上 (5.5以上)	39～42 (4.5～5.5)	39以下 (4.5以下)

追肥 (N成分)	幼穂形成期	なし	ムラ直し1 kg/10a	1～2 kg/10a
	減数分裂期	なし	1～2 kg/10a	1～2 kg/10a

注)あきたこまち、目標収量570kg/10a

- 幼穂形成期（幼穂2mm）の極端な葉色低下は、1穂粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。幼穂を確認し表を参考に生育・栄養診断を実施して下さい。
- 幼穂形成期に草丈65cm以上で葉色が濃い場合は、穂肥は控えます。
- 幼穂形成期に草丈60～65cmで、葉色の低下が見られる場合は、減数分裂期（葉耳間長±0cm）主体の追肥を実施します。
- 幼穂形成期に草丈60cm以下で、葉色が低下している場合は 幼穂形成期と減数分裂期の追肥を実施します。
- 一発型の肥料を施用した場合は、基本的には追肥は控えるようにします。

4 病虫害防除 ～畦畔等の草刈りを徹底して斑点米カメムシ類を抑制～

①斑点米カメムシ類

- 近年、斑点米被害は増加傾向にあります。斑点米被害軽減ため、畦畔や農道等の草刈りは出穂10日前までに徹底し、イネ科雑草の除去に努めましょう。
- 水田内にホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

②いもち病

- ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス）を散布して下さい。
- 葉いもちが発生しているほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）を散布するか、出穂直前にビーム剤（又はトライフロアブル）と穂揃期にラブサイド剤（又はトライフロアブル）で茎葉散布を行います。

③ごま葉枯病

- 過去にごま葉枯病の発生があり、「秋落ち」が認められるほ場では、出穂直前と穂揃期にブラシンフロアブルまたはノンブラスフロアブルを散布してください。また、発生履歴がないほ場でも、幼穂形成期～穂ばらみ期に発病が見られた場合は、出穂直前と穂揃期に防除を行ってください。

！長期予報では気温が高い予報となっています。熱中症対策を万全に行い作業しましょう！